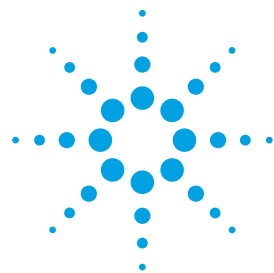


Agilent 2100 バイオアナライザ 電気泳動システムリミテッド

電気泳動専用システム



Agilent 2100 バイオアナライザに 新しいラインアップが加わりました。

Agilent 2100 バイオアナライザは、世界で初めて Lab-on-a-chip 技術を利用した電気泳動装置です。従来法における手作業の過程を大幅に軽減し、サンプルの電気泳動から分子サイズ、濃度の決定を全自動で行います。

これ1台でゲル電気泳動(DNA, RNA, Protein)の アプリケーションに対応



DNA - マルチプレックスPCR産物、RT-PCR産物を精密に分析
2つの内部標準とラダー(分子量マーカー)により正確な産物サイズの決定を行います。



RNA - totalRNA, mRNAの分析が可能
RNA Integrity Number(RIN)によりtotalRNAの分解度を客観的に評価できます。



Protein - SDS-PAGEを自動化。泳動から染色・脱色、分子量決定/定量までを自動で行います。タンパク質精製における純度検定、クロマトグラフィのモニタ等ができます。



バイオアナライザ電気泳動
ノートシステムリミテッド

操作はとても簡単。特別なトレーニングは不要です。



1. 操作はとても簡単
チップの調整



2. 全自動分析
分析スタート



3. デジタルデータを表示
リアルタイムで
データを表示

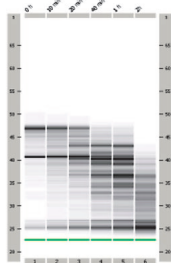
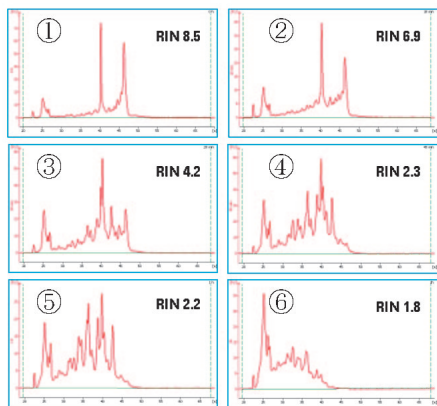


バイオアナライザ電気泳動
デスクトップシステムリミテッド



Agilent Technologies

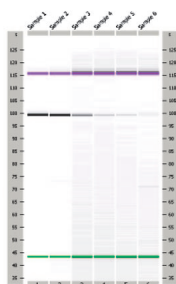
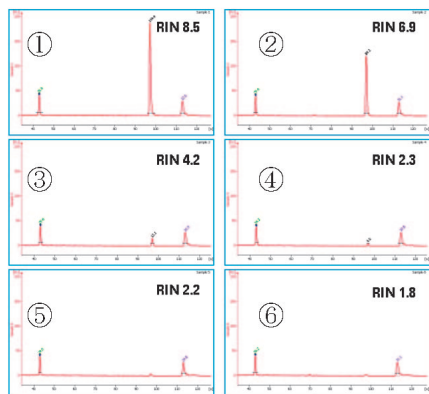
バイオアナライザRINのRT-PCRへの応用実験



同じサンプル由来のものを故意に段階的に分解させました。
①→⑥
分解度合いに従い、RINの数値が悪くなっていることが表示されています。
(RNAの濃度は全て同じにしてあります)



RT-PCR



RT-PCRした結果をバイオアナライザDNAキットで分析しました。RNA濃度が同じでも、RIN値が小さくなるに従って(つまり分解が進むに従って)RT-PCRの増幅量が減少しているのがわかります。

この結果によりRINの値が、RNAの分解度を客観的に数値化していることがわかります。

主な仕様

Agilent 2100 バイオアナライザ電気泳動システム リミテッド(ノート/デスクトップ)

- 検出法 レーザー蛍光検出法
- 光源 半導体赤色レーザー(中心波長630nm)
- アプリケーション 電気泳動(DNA/RNA/Protein)
※アプリケーション・キットが別途必要です。
- 電極 カートリッジ式16ピン電極
- 装置重量 10kg
- 装置サイズ 162(W)×412(D)×290(H)mm
- 所要電源 100-240 VAC, 60VA, 50-60Hz
- 設置環境 温度5-31℃ 湿度80%以下
- データ処理部 コンピュータ本体、インクジェットカラープリンタ、(モニター)
※品名によって仕様は異なります。
- 付属品 OS: Windows®XP、バイオアナライザ専用ソフトウェア
専用ボルテックスミキサ、チップ調整スタンド、テストチップ

専用工具不要で、 電極のメンテナンスも簡単!!



アジレント・テクノロジー株式会社

本社/〒192-8510 東京都八王子市高倉町9-1
●カスタムコンタクトセンター ☎0120-477-111

※仕様および価格は予告なく変更する場合があります。

www.agilent.com/chem/jp

copyright © 2007 Agilent Technologies
All Rights Reserved.

本書の一部または全部を画面による事前の許可なしに複製、改変、翻訳することは、著作権法で認められている場合を除き、法律で禁止されています。

Printed in Japan, Feb. 1, 2007
5989-3811JAJP



Agilent Technologies